

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社評価基準研究所

② 施設・事業所情報

名称：清心保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：清水 啓子	定員（利用人数）：265名
所在地：茨城県ひたちなか市高野1782-5	
TEL：029-202-0300	ホームページ：http://seishin.biz/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1997年4月	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 清心福祉会	
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員：26名
専門職員	保育士：34名 調理員：2名
	看護師：4名 栄養士：2名
	保育士サポーター：3名 事務員：1名
	用務員：1名
施設・設備の概要	居室数 保育室：14、子育て支援室：1、病後児保育室：1、休憩室：1 一時保育室：1、応接・会議室：1、職員室：1、
	設備 沐浴室：2、調理室：1、配膳室：1、調乳室：1、トイレ：11、 洗濯室：1、倉庫：2、ステージ：1、遊戯室：1 建物面積：2035.52㎡

③ 理念・基本方針

- | |
|---|
| <p>1) 経営理念：法人としての基本的な方向性・価値観を明確化し、日々の保育・運営の判断基準として活用。</p> <p>2) VISION・MISSION・PASSION・ACTION ステートメント：経営理念の実現に向けた具体的な指針、職員の行動や保育方針に反映。</p> <p>3) スローガン：「子どもの成長の機会」を大切にし、職員や保護者に分かりやすく親しみやすい形で理念を共有。</p> <p>4) 中長期保育テーマ・中長期職員テーマ：5年ごとの見直しを通じ、子どもの成長を育む保育方針や職員育成方針を定め、理念と現場を連動。</p> <p>5) 年度ごとの保育テーマ・職員テーマ・三大重点項目：中長期テーマを達成するために単年度でテーマを設定。</p> |
|---|

④施設・事業所の特徴的な取組

すぐれた組織マネジメントと園全体の安全基地となっている園長のあたたかな指導力の下、保育者と子どもがともに最大限に力を発揮し、健やかに調和し相互を尊重しながら安定した心で協働し、良好な保育を展開している。食の大切さを根本から見つめた質の高い食事提供と丁寧な食育、子どもの主体性・協働性を育む非常に高いレベルの和太鼓活動、心身の健康をつくる毎日の運動遊び、さまざまな学びの要素を盛り込んだ朝の会など、充実した保育により、生きる力と感謝の心をもち平和と社会に貢献できる人間育成に取り組んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年9月1日（契約日）～ 令和8年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（令和2年度）

◇特に評価の高い点

【和太鼓活動が子どもの文化として定着・継承され、子どもたちの主体性・協働性・達成感を育む核として機能している】

・本園の太鼓活動は、単なる行事演目ではなく、園に長く根づいた「子どもの文化」として定着・継承されている。子どもたちは年齢ごとに応じて自然に太鼓に関心を寄せ、年長児の姿を見て憧れを抱き、自ら「やりたい」気持ちが生える。大人の誘導ではなく、日常の中で太鼓が身近に存在し、子ども同士の模倣や憧れを通して文化が伝承されている。練習が「大変なもの」ではなく、子どもたちが誇りを持って取り組む活動となっている。保育者と子どもが自ら喜びと誇りをもって取り組み、その中で活動の価値を再認識し、技術だけでなく心の動きや仲間との関係性とともに継承していることも素晴らしい。太鼓は園の象徴的な文化であり、子どもたちの主体性・協働性・達成感を育む核として機能している。

【協働の中で高め合い力を伸ばしていく保育者と子どもたちの活気ある同調が、園全体のいきいきとした空気感を創り出している】

・朝の会でのさまざまな教材をつかった学びの機会、きわめて高いレベルの太鼓演奏。本園の大きな特長であるこれらの取り組みは、その多くが保育者の協働的な技術伝承に支えられている。本園の保育者は、園に伝わってきた基本的なマニュアルや専門家のアドバイスを活かしつつ（教え教えられる関係の中で）相互研鑽を重ね指導技術を高めてきたのだ。一方で子どもたちはといえば、低年齢児クラスの時期から着実に経験を重ね、太鼓活動では年長児の姿を見て憧れとともにやる気を高め、生活の中に良いモデルがあることで身につけた基礎力を土台にして自らの力をぐーんと伸ばしていく。協働の中で高め合い力を最大限に発揮する子どもたちと保育者。両者の姿が気持ちよく共鳴して走っているところが、本園の活気源であり、そのまま良いところだろう。健やかに調和し相互を尊重しながら、安定した心で協働する。まさに法人が掲げる経営理念「和敬清寂」のあらわれである。

【人間形成の基本として食を大切に、食育活動、食材の選択、良質な食の提供を行い、総合的な食育を展開している】

・本園は人間形成の基本として食を非常に大切に、総合的な食育を展開している。まず特筆すべきなのは食材選択。国産の良質な食材というだけでなく添加物の有無や製造方法の正しさなど丁寧にチェックし、素材から調味料、油に至るまで、徹底して良質な食材を採用、薄味・和食を基本とした豊かな献立に展開している。毎日食べ続けることで子どもたちは自然に良質な食への感性、基本的な感覚を身に着ける。これは将来にわたって食を育む力の土台になる貴重な経験だろう。また保護者に対しては食材やメニューの紹介、参観日での実際の試食と栄養士からの説明を通して食への意識啓発も行っており、家庭での食生活の向上にも大きく貢献している。保育の中の活動としても、ジャガイモやサツマイモの栽培をカレーづくりや干し芋づくりに発展させたり、梅シロップ、みそ、ジャムづくりをしたりと多彩な食育活動を展開、農産物の豊かな地域性も生かしながら、食の楽しみ、食への意識を広げている。総合的に展開する豊かな食と食育活動が、子どもたちの健やかな体と心を育てている。

◇改善を求められる点

【現在の恵まれた環境を土台に、さまざまな活動につながる空間的環境を工夫していきたい】

・ 広々と余裕をもってつくられた本園の園舎には、大きなポテンシャルがある。そのひとつが2間（180cm）幅の廊下。通行動線を差し引いても十分な広さがある長い直線スペースをリニアな広がりのある遊びや距離が必要な遊びに活用できれば面白い。豊富な蔵書がある本棚のスペースも、図書室的な立ち位置を持たせればもっと楽しい集いの場所になるかもしれない。またエントランスの素敵なロビーサークル的なスペースには、季節の行事にまつわる飾り付けが工夫されているが、親子の図書スペースや継続的な遊び場、協働創作のアトリエなど、それこそ無限の可能性がありそうだ。何か楽しそうなもの、子ども・親子・保育者がみんな楽しんで取り組めそうな活動、まずそうした活動を想起しながら空間的な環境づくりを工夫していく。時間を上手につかい目的をもって的確に行動できる本園の子どもたちなら、はじめて出現した空間もきっと上手に使っていきけるに違いない。さまざまな活動につながる空間的環境をさらに工夫していきたい。

【一人ひとりの遊びから、協働的な遊びと学びの時間の環境づくりを工夫してほしい】

・ 太鼓活動からもわかるように、共通の成功イメージや共感を持って活動することに慣れている子どもたち。すでに遊びを自分たちで展開できる力を持ち合わせている。STEAM的な探索活動は日常の中に存在している上、園庭には、氷・水・光、多彩な自然環境があり、子どもが興味を持つ現象が豊富にある。そこでここからの課題をあげるとすれば、「それらの活動を深める時間」と「環境の仕掛け」だろう。たとえば午後の時間を活用し、余裕を持って協働的な探求・学びの自由な時間に充てるなど、柔軟な時間設定もしてみたい。協働活動を意図的に組み込むことで、主体性と社会性の両方を伸ばすことが期待できる。子どもの「これは何？」の声、保育者の「やってみる？」の声。そして小さな気づきを持ちより、一人ひとりの遊びから、複数人、グループ、クラス間交流、異年齢児交流につなげていければ面白い。より一層、協働的な遊びと学びの時間の環境づくりに期待する。

【子どもの活動を園内に残し、さらに活動意欲が広がる環境を整えていきたい】

・ 日課や課題を示す教材が年齢に関係なくどのクラスにも掲示され、一貫した教育的な環境構成となっている。日々習得した知識は積み重ねられ、子どもの自信につながり、進級しても馴染みやすく安心感を与えている。一方で子どもの表現活動やその記録を残した写真などを垣間見る機会は少ない。絵画や製作物、子どもが気に入っている玩具で作った作品、廃材を活用したものなど、子どもの個性が表れるものが少ないことに少し物足りなさを感じる。表現活動は子どもの興味や意外な一面を引き出すきっかけにもなれば、友達との違い、そして自分自身を知る機会にもなる。そして遊びや製作過程などの振り返りを通して、次への意欲が生まれてくる。今まで何もなかったところに花を置く、子どもの作品や活動の痕跡を生活の場に置いてみる。少しの工夫とその積み重ねはきっと子どもの気づきと会話を生み出し、子どもの新たな活動意欲の広がりにつながっていくだろう。今後の遊びの多様性と深まりに向けた「アトリエ」を設けることも園では検討しているそうであり、今後の継続的な制作物の展示が継続できるようなスペースづくりなどにも期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

このたびは、当園の保育及び運営に対し、温かいご評価と貴重なアドバイスを賜り、心より御礼申し上げます。

園全体の明るく前向きな雰囲気の中で、職員同士が日常的に声を掛け合いながら協働し、子ども一人ひとりの個性や発達段階に寄り添った保育を実践している点について評価をいただき、大変嬉しく受け止めております。また、関係機関との連携を活かし、個々の状況に応じた支援体制を整えている点についても評価をいただき、日々の取組が子ども一人ひとりの育ちにつながっていることを改めて実感しております。

一方で、子どもが自ら遊びを選択し、主体的に活動を展開していくための環境構成や関わり方について、さらなる工夫の余地があるとのアドバイスをいただきました。今後は、子どもの姿を丁寧に観察し、その興味・関心や発達に応じた環境設定を行うとともに、職員間での情報共有や振り返りを通じて関わりの質を高めてまいります。

また、これまで大切にしてきた職員同士の協働の文化を基盤としながら、互いの保育実践を学び合い、支え合う関係性をさらに深めることで、組織としての保育力の向上にも取り組んでまいります。

今後も、温かいチームワークの中で、子ども一人ひとりが自分らしい「ときめきの種」を見つけ、安心して伸びていくことができる環境づくりを推進してまいります。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）

評価細目の第三者評価結果（個票）

※評価細目について、判断基準に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念，基本方針が確立・周知されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-(1) ① 法人や施設（事業所）の理念が明文化されている。	a b c	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-(1) ① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c	
I-2-(1) ② 経営課題を明確にし，具体的な取り組みを進めている。	a b c	

～以下，評価基準に沿って評価細目毎に公表